

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05269	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	脂質輸送型 ABC 蛋白質の謎に迫る	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	植田 和光 (京都大学・高等研究院・特定教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、脂質輸送型 ABC 蛋白質のうち、特に ABCA1 について、善玉コレステロール HDL 形成に関与するトランスポーターとしての機能に加えて、脂質の貯蔵や局在あるいは受容といった細胞の増殖や融合などにおける細胞膜の恒常性維持への関与を解明しようとする研究である。</p> <p>これまでに、当初の研究計画のうち、ABCA1 による HDL 産生の新たなスイッチ機構を解明し、コレステロールフロップによる細胞遊走の調節機能の発見につなげている。また、ABCA1 ノックアウトメダカの作製に成功したことは、今後の表現系解析による生理的機能を解析するための基盤になるものと考えられ、期待どおりの成果が見込まれる。</p>		